

M7CL-48ES

Auto Configure ガイド



The World's Most Popular
Digital Mixer Goes Remote

DIGITAL MIXING CONSOLE
M7CL-48ES



Auto Configure機能とは

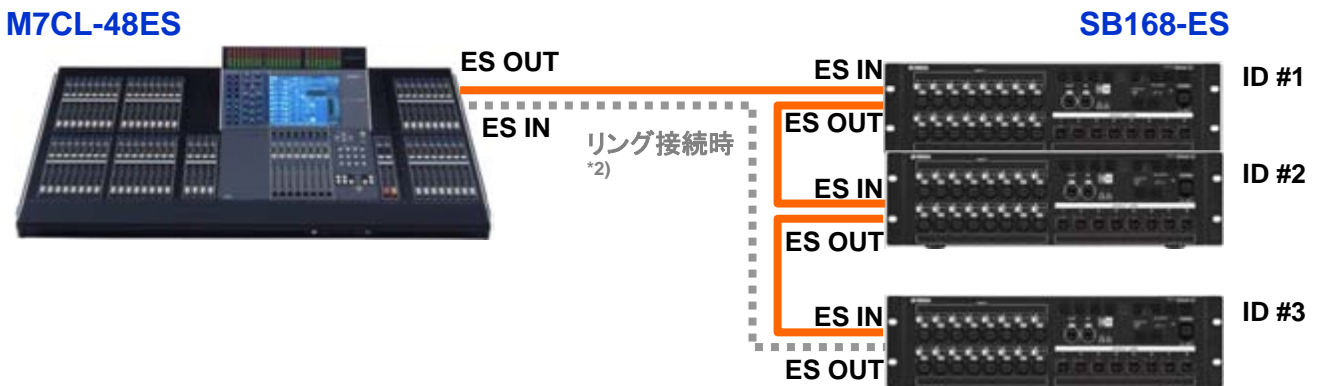
Auto Configure機能は、M7CL-48ESとSB168-ES *1)の設定をPCを使用しないで自動的に行うものです。このガイドでは、3つのステップで簡単にシステムのセットアップができるよう解説しています。なお、Auto Configure機能はM7CL-48ESとSB168-ESとの組み合わせのみに対応しています。

*1) Auto Configure機能を使用するにはSB168-ES本体のファームウェアがV1.1以降、およびEtherSoundモジュールのファームウェアが0C16以降である必要があります。

ステップ0: M7CL-48ESとSB168-ESを箱から出します

ステップ1: ES OUT - ES IN間をケーブルで接続します

etherCONコネクタ付きのCAT5eケーブルを使って、M7CL-48ESと3台のSB168-ESを下図のようにデジチェーン接続します。

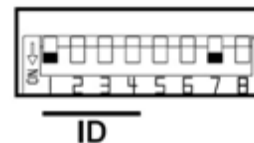


*2) リング接続の場合は、デジチェーン最終機器のSB168-ESのES OUTとM7CL-48ESのES INをCAT5eケーブルで接続します。リングモードではケーブル障害に対応するリダンダントシステムを実現します。デジチェーンモードでは送信と受信それぞれ64チャンネル=128チャンネルが使用できますが、リングモードでは使用できるオーディオチャンネルの合計は64に制限されます。Auto Configure機能でリングモードを使用する場合は、M7CL-48ESのEXT-ES HA RACK画面で「Ring」を選択します。

ステップ2: SB168-ESのディップスイッチを設定します

SB168-ESの電源をオンにする前にフロントパネルのディップスイッチを設定します。このディップスイッチによってそれぞれのSB168-ESのパッチとIDが設定されます。上記システム例の場合、下の設定チャートの矢印で示した列のように各SB168-ESのディップスイッチを設定します。

	SB168-ESの台数	ID #1	ID #2	ID #3
デジチェーン接続	3台	1&7	2&7	3&8
	2台	1&7	2&8	
	1台	1&8		
リング接続	3台	1&5	2&5	3&6
	2台	1&5	2&6	
	1台	1&6		



デジチェーン接続でのSB168-ES ID#1の設定例: 1&7

ステップ3: 機器の電源を入れます

M7CL-48ESとSB168-ESの電源をオンにします。セットアップはこれで完了です。

M7CL-48ESの工場出荷時の設定では、Auto Configure機能はオンになっています。設定画面では「Daisy Chain」モードと「Ring」モードの選択ができ、デフォルトは「Daisy Chain」モードになっています。SB168-ESのパッチ設定の詳細については次ページの付録を参照してください。

付録: Auto Configure機能で設定されるチャンネルのパッチ

Auto Configure機能を使用すると、3台のSB168-ESを使用したデジチェーン接続時には以下のようにパッチが設定されます。



リング接続時に3台のSB168-ESを使用した場合、EtherSoundネットワークで利用できるアウトプットチャンネルは16チャンネルのみとなります。従って、SB168-ES ID#3 のアウトプットはオレンジ色で示した部分のようにSB168-ES #2のアウトプットと同じ設定になります。

パッチを変更したい場合は

SB168-ESのアウトプットパッチを変更したい場合は、M7CL-48ESでパッチの変更を行います。

新たに別のEtherSound機器(DME/TXn/ライブレコーディング機器など)をシステムに追加する場合は、AuviTran社のAVS-ESMonitorを使用してそれらの機器の設定を行う必要があります。その場合、M7CL-48ESでAuto Configure機能をオフにしてからAVS-ESMonitorで「lock routing」のチェックを外します。

EtherSoundセットアップのさらに詳細な情報については、「EtherSoundセットアップガイド」(下記ヤマハプロオーディオウェブサイトよりダウンロードできます)を参照してください。

http://proaudio.yamaha.co.jp/training/self_training/index.html



SB168-ES ID#3のOutput 7をSt LからMatrix7に変更した例 (Matrix 7をES23にパッチ)